

一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和6年5月23日

多摩市議会議員 岩永ひさか

多摩市議会議長 三階 道雄 殿

質問項目

1 「対話」ができる学校づくりのために

答弁者

市長・教育長等

受付	令和 年 月 日	No.
	午前・午後 時 分	

項目別質問内容

1 「対話」ができる学校づくりのために

4月に徳島県の神山町へ足を運び、全国からも注目されている「神山まると高専」を見学しました。義務教育終了後、「高専」への進学が一つの選択肢としてもっと一般化されてほしいとも思いましたが、この学校で掲げられている5つのアドミッションポリシー、①モノづくりに興味や関心がある人、②多様な価値観を受け入れ、自分の意見を伝えられる人、③情報を適切に処理する思考力がある人④正解のない問いに対して、独自の解を出せる人、⑤必要な学習を続ける意欲があり、学んだことを活かせる人 とは、これからの時代を担う人材により求められていく資質と言え、同時に、義務教育9年間の「人づくり」に対しても、期待されている事項として捉えることが可能です。

さて、多摩市では「2050年の大人づくり」を掲げた教育活動に力を入れてきましたが、「知識伝達型」ではなく、主体性を育む「アクティブラーニング型」教育への取組みの実践はどこまで進んできたのでしょうか。

また、多摩市教育委員会は、すべての子どもたちが知性、感性、徳性を高め、心身ともに健やかな市民として成長し、生きる力が育まれることを願い、自ら意欲的に学び、考え、表現し、行動する力をもち、個性と創造力豊かな人間を育成すること、互いの人格と多様性を尊重し、思いやりと規範意識をもって他者と協働し、地域や国際社会に貢献しようとする社会性豊かな人間を育成すること、心身ともに健やかで、健康的な生活習慣を重んじる人間を育成することを掲げていますが、そのために行われてきた教育活動の成果は、多摩市の学校教育の「質的」向上にどうつなげられたと捉えているのでしょうか。

そして、現在、さらなる成果を上げるために各学校が取り組んでいる「コミュニティスクール」ですが、そこに必要とされる学校・家庭・地域の連携・協働の拡充や豊かな地域づくりに向けた学びの支援の進捗状況も気になるところです。

今後、教員の働き方改革もあり、例えば、中学校の部活動については、地域移行をめざすこととなりますが、その受け皿づくりにどう取り組んでいくかも課題です。もともと今、まずは子どもや学校を支えてきたPTA活動の存続、その在り方も危ぶまれる状態になっています。あわせて、学校は教員不足に陥り、学校を支える人材についても雇用形態の多様化も進めざるを得ない状況にあり、そのせいか、「チーム学校」という表現がますます重宝されているように感じています。

項目別質問内容

<p>私は、学校が本質的に「チーム力」を育み、「こどもまんなか」の教育活動を進めていくためには、「対話」が求められると考えていますが、多摩市が自治基本条例を改正してまで位置づけた「協創」や「地域協創」、あるいは、子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例の存在意義に照らしても、その必要性がより一層、増しているように思います。もちろん、学校そのものが「対話」のできる環境、状況であることが求められますが、それ以上に問われるのが、教育委員会が「対話」をどう認識し、重視しているかという点です。言うまでもありませんが、市教委と学校の間にも「対話」できる関係性が構築されているのかも問われるのではないのでしょうか。現状について伺うため、以下、質問いたします。</p>
<p>(1) 3月議会の一般質問で、子どもたちの主体的な取組みを促していることが、教育の質の向上につながっていると考えているとの答弁があり、その具体的な取組みとして、校則・学校行事などの見直しを図ってきたとありましたが、それはどのような内容なのか伺います。</p>
<p>(2) また、全国に先駆けて教科書採択に児童・生徒の意見を反映するなどしてきたとも答弁されていましたが、それはどのような手法により行われたのか伺います。</p>
<p>(3) 多摩市教育委員会では毎年、子どもみらい会議を実施しています。その成果は誰がどのように評価しているのか、また、次年度の取組みにいかしてきたのか伺います。</p>
<p>(4) 今後、中学校の部活動の地域移行に向けて、さらに取組みを進めていくことと思いますが、それぞれ中学校にも現場の事情などは異なっており、ていねいな聞き取りやフォローが必要になっていくように思います。教育委員会としてどのように取組みを進めていくつもりなのか伺います。</p>
<p>(5) 市内小中学校のPTA活動の現状についての認識を伺います。また、顔の見える学校づくり、教育委員会をつくるための取組みについても伺います。</p>
<p>(6) 「対話」の大切さや必要性については認識を共有できていると思っていますが、実際に、教職員がそのことを意識し、日々の授業や学校生活の中で取り組むためには、その技法を習得することも求められると考えています。学校やクラス経営などにおける「対話」について、多摩市教育委員会が実施している研修や各学校における取組みを伺います。</p>

